

JARA 発第 17 127 号

平成 18 年 1 月 4 日

都道府県ボート協会 御中

日本代表候補選手派遣団体 御中

社団法人 日本ボート協会

理事長 平岡 英介

## 2006 年度強化方針について（修正とお詫び）

新年明けましておめでとうございます。

平素は日本ボート協会の諸活動に対しご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

特に昨年は長良川での「世界ボート選手権」を、関係各位並びに日本ボート界全体のご支援ご協力により成功裡に開催することが出来ましたことを改めて御礼申し上げます。

12万人の来場を得て日本ボート界の皆様にも、世界のトップクルーの迫力あるレースを間近に観て頂くことが出来ました。

アジアで初の開催としてアジア各国からも多数の参加を頂きました。

開催国である日本も各所属団体のご理解のもと、15クルー・50名の選手団を編成させて頂き多くの選手に日本代表として世界にチャレンジして貰うことが出来ました。

強化事業としてはいよいよ北京五輪でのメダル獲得に向けて始動しております。

日本ボート協会として日本でのボートの普及・振興・発展のために、「北京でメダル」を獲得することが重要事項であると確信しております。

アトランタ五輪から軽量級種目が採用され日本にもメダルの可能性が高くなり、シドニー五輪で初の決勝進出を遂げ、アテネ五輪での悲願達成に向けて最大限の対応を致しました。

アテネでは選手・所属団体・コーチ陣・強化委員会が一丸となり、LM2×はその時点での最高のパフォーマンスを発揮し、後僅か数秒のところまで追い込みましたが残念ながら結果的にシドニーと同様の6位で終わりました。

北京で確実にメダルを狙うには「金」をも獲得できる「後2～3艇身」のレベルアップと、1500mからの激しい争いを凌げる技術力・体力・精神力が必要であると痛感しております。

この考え方をベースとして、アテネまでの強化体制を高く評価しながらも日本クルーの更に一段も二段のレベルアップ・ステップアップを図るにはどのようにすべきかを、新たな強化委員会並びに理事会で検討し昨年実施しました。

即ち、国際スタンダードと言われる厳しいトレーニングを図るために、優秀な外国人コーチの採用、並びにトップスカラー3名を選考して長期に亘る欧州合宿・遠征の実施であります。

結果として、ワールドカップでLM2×の2位と、LM1×の初優勝を達成しました。

長良川の世界選手権では予知・予防しにくい疲労骨折等により決勝進出はなりませんでしたが、僅か2週間足らずの調整で世界のトップクルーと互角に戦うことが出来ました。

北京に向けてのレベルアップの可能性として、イタリア人コーチ「ジャンニ氏」に指導体制を一元化して2007年の北京五輪参加資格を取る世界選手権と北京の本番に向けて長期的強化事業を実施することを理事会として決定しました。

勿論、五輪種目であるLM4 - とLW2×の強化、並びに次代を担うU23グループの強化体制も併せて実施していきます。

このような基本的考え方をベースに「2006年度強化方針」を策定し、昨年10月31日に「JARA 発 17-107号 06年度強化方針」として公表致しました。しかしながら、その内容の一部に大変不適切な表現箇所があり、都道府県ボート協会及び登録団体、皆様方に、多大なご心配、ご迷惑をお掛けしたことと思えます。かかる事態は全く以って遺憾なことであり、ここに謹んで衷心よりお詫び申し上げます。

表現の不適切な箇所として読み取れます「単独クルーでのチャレンジレース」は協会の強化システムとして現在は一切採用しておりません。

ご高承の通り日本代表選手の選考方法は、選手を派遣して頂いている各登録団体のご理解とご協力により、日本協会が主催する強化合宿に参加頂いた選手の中から選考するという強化システムを確立させて頂いております。

従いまして、下記の通り表現を修正すると共に確認方々ご連絡申し上げます。

なお、この選手選考方法の確認とご連絡が遅くなりましたことを改めてお詫び申し上げます、日本代表候補選手を派遣頂く団体におかれましては追って協会より救済措置を発表しますので、是非とも「1月強化選抜キャンプ」に参加されますよう対応方宜しくお願い申し上げます。

つきましては、別紙のように、2006年度強化方針(10月31日発表時点の内容)の不適切部分を修正すると共に、下記に修正箇所と修正内容、選手選考における協会の基本方針と今回の経緯につきまして、ご説明申し上げます。

なお、各月のキャンプの内容は実施要項として都度公表いたします。

敬具

## 記

### 1. 修正箇所

<選手選考方法> 2月選手評価キャンプ 戸田(2月15~20日 予定)の項

#### 【修正前】

参加資格 : 1月キャンプで選抜された選手。

選抜選手にチャレンジするクルー及び選手。

(チャレンジレース・チャレンジ資格詳細は別途通知する)

軽量級選手はキャンプ集合時、男子73kg、女子60kgとし、キャンプ開始時の計量でクリアできない選手は参加資格を失う。

キャンプ内容: 選手評価エルゴ漕

男子スイープ候補選手トレーニング及び男子チャレンジペアレース。  
このレースでA1スイープ6クルー(12名)、U23スイープ4クルー(8名)を選抜する。

男女スカル候補選手(U23男子6名、女子10名 合計16名)トレーニング及び男女スカルチャレンジレース。

このレースでU23男子6名、女子10名 合計16名を選抜する。

\* 費用負担は別途定める

\* 2月選手評価キャンプ、チャレンジレース実施要項及び申込みは別途通知する。

#### 【修正後】

参加資格 : 1月キャンプで選抜された選手。

軽量級選手はキャンプ集合時、男子73kg、女子60kgとし、キャンプ開始時の計量でクリアできない選手は参加資格を失う。

キャンプ内容: 選手評価エルゴ漕および評価レース

男子スイープ候補選手トレーニング及び男子評価ペアレース。

このレースでA1スイープ6クルー(12名)、U23スイープ4クルー(8名)を選抜する。

男女スカル候補選手トレーニング及び男女スカル評価レース。

このレースでU23男子6名、女子10名 合計16名を選抜する。

\* 費用負担は別途定める

\* 2月選手評価キャンプ、評価レース実施要項及び申込みは別途通知する。

### 2. 日本代表選手選考における協会の基本方針

過去に「チャレンジレース」の名称で、単独クルーが選抜クルーに挑戦するというレースがありました。

前述の通り現在の選考システムが確立されてからは、そのような単独クルーによるチャレンジレースは一切実施しておりません。

現在の選考システムは「強化合宿」において各選手の評価を行ない、日本代表選手を選考する方式となっており、この方法は、都道府県協会はもとより、広く登録団体の皆様のご理解とご支持により、今日に至っているシステムであると認

識しており、協会としてもその基本方針は微動だにしておりません。

今回、「チャレンジレース」という不適切な表現により誤解と混乱を招いたことは重ねてお詫び申し上げますが、もし唐突にも「チャレンジレース」を行なうが如き方針の大転換をするとすれば、その経緯について詳細なる説明が付されていない筈です。

従いまして、現在の日本代表選手選考方法は「選考合宿での評価、選抜」であり、過去に実施したような「チャレンジレース」方式を復活させるものではないことを確認申し上げますので、ご理解を宜しくお願い申し上げます。

### 3. 今回の事態発生の経緯

「チャレンジレース」が有るが如き表現をしてしまった経緯は、A1 軽量スカル代表選手3名の固定化方針（長期的視野から選手を強化する方針、無駄なストレスを選手へ与えずに最大限のレベルアップを目指す）に対し、一部からのご意見として3名以外にも少しでもチャレンジできる余地を残して欲しいとの要望がありました。

そのご意見への対応として、2月に実施される A1 最終選考に12月合宿と1月合宿で残念ながら選抜されなかった選手にも、公平・公正に2月キャンプに参加できるものとなりました。

「チャンスを与える」という意味が「チャレンジレース」との不適切な表現になったことと、A1 スカルの文言が抜けたため A1 スィープも同様であるかの誤解を与えたものです。

元々A1 スィープは3月に最終選考することとしており、2月にLM4 - 代表クルーが存在するわけでは無いので、あたかも単独クルーのチャレンジがあるかのような解釈は有り得ないとの判断から安易な表現となったものです。

従いまして、今回表現された「チャレンジレース」は、あくまでも、「強化キャンプ」内での「評価&チャレンジのレース」が正しい表現ですが、誤解を招く表現は「方針」から削除させて頂き、各月の要項にて明示させて頂きます。

以上、何れにしましても、誤解を与えてしまった今回の不適切な表現について、その発表と対応の甘さから、大変な混乱を招いてしまった責任については痛感しております。今後、理事会にて然るべき対応を検討して参る所存です。

尚、12月3日のナショナルチームプレゼンテーション時に、口頭にて、既に不適切表現の内容について修正させていただきましたが、今回、改めて文書にて正式に強化方針として前述の修正の上通達させていただきますので、ご対応を宜しくお願い申し上げます。

今後とも協会の諸事業について、ご理解とご指導、ご鞭撻を賜りたく、お願いを申し上げ、お詫びと修正のご説明とさせていただきます。

以上